

2026年9月14日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

概 要

全国景気※	緩やかに回復しているが、中東情勢や自然災害の影響を注視する必要がある
長野県内景気	持ち直しの動きがみられる
6月の生産動向	生産は持ち直している
7月の個人消費	乗用車新車販売台数は2カ月連続で前年を上回る
7月の公共投資	公共工事保証請負額は2カ月連続で前年を上回る
7月の住宅投資	新設住宅着工戸数は4カ月連続で前年を上回る
7月の雇用情勢	有効求人倍率は2カ月連続で前月を上回る
今後は、中東情勢の悪化に伴う資源価格上昇や供給面への影響について注視する必要がある	

※内閣府「月例経済報告(2026年8月)」より

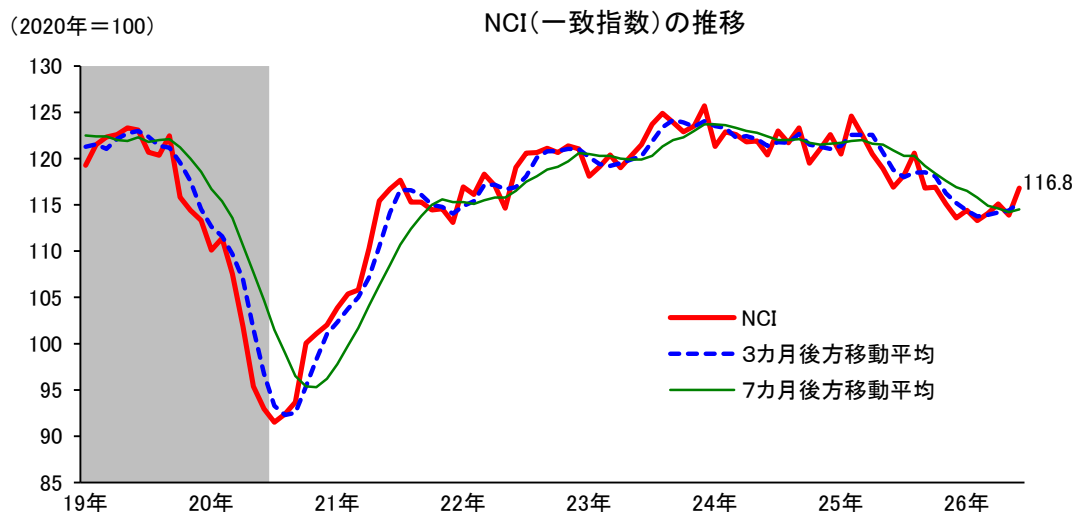
照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部
担当 桑井、須田
電話 026-224-0501



景気動向指数

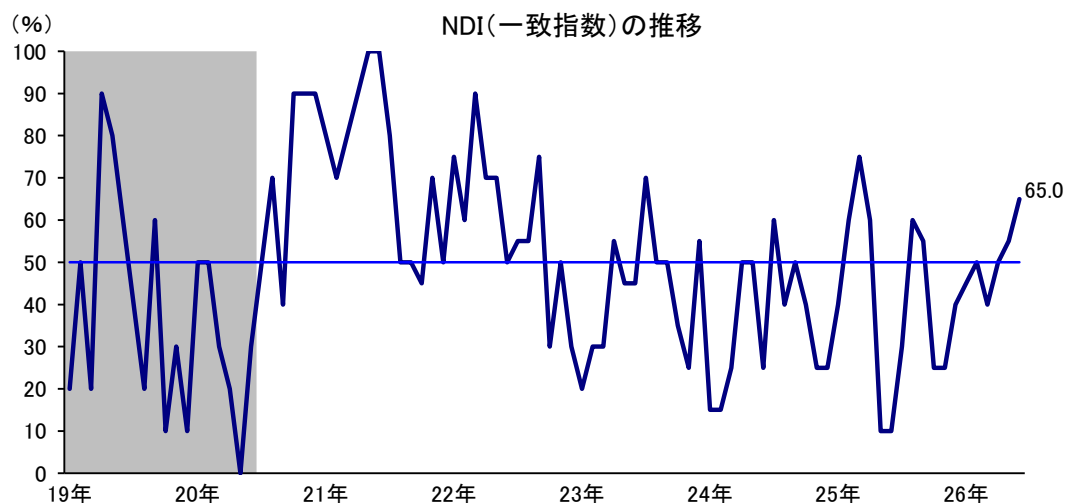
- 6月のNCI(一致指数)は、116.8と前月と比較し+2.9ポイントとなった。3カ月後方移動平均は、同+0.9ポイントと4カ月連続で上昇した。7カ月後方移動平均は、同+0.3ポイントと15カ月ぶりに上昇した。これを機械的な基準に当てはめた結果、NCI(一致指数)は、下げ止まりを示している。
- NDI(一致指数)は、65.0%となり、景気判断の分かれ目である50%を2カ月連続で上回った。



(資料) 当研究所「長野県景気動向指数」

(注) 1. NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す

2. シャド一部分は長野県の景気後退期を示す



(資料) 当研究所「長野県景気動向指数」

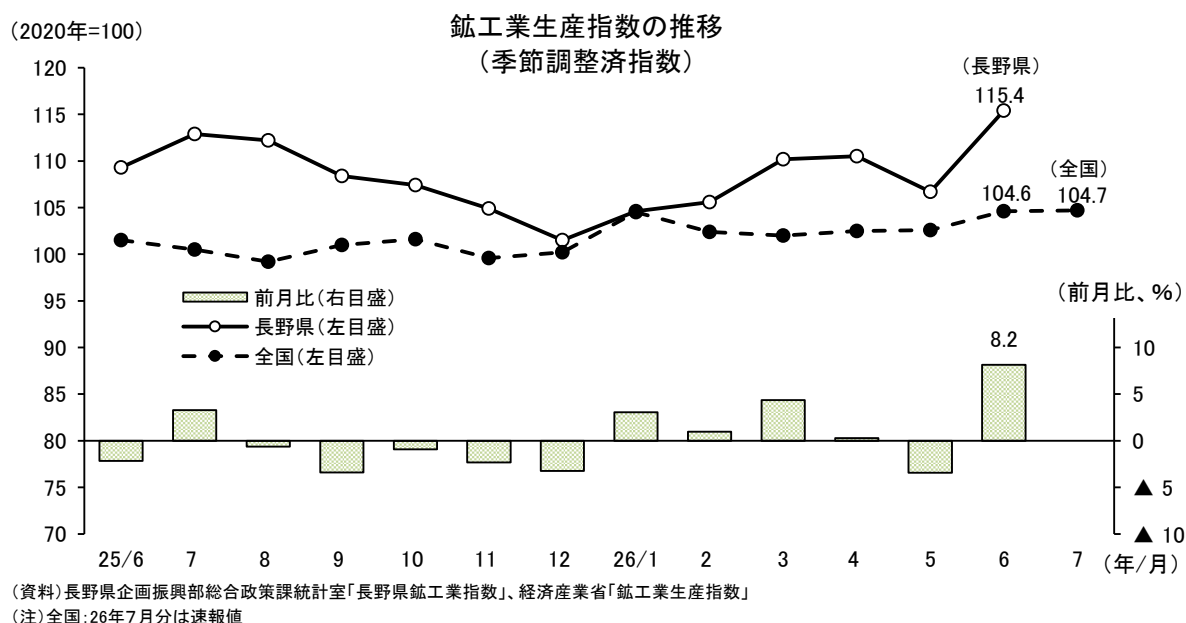
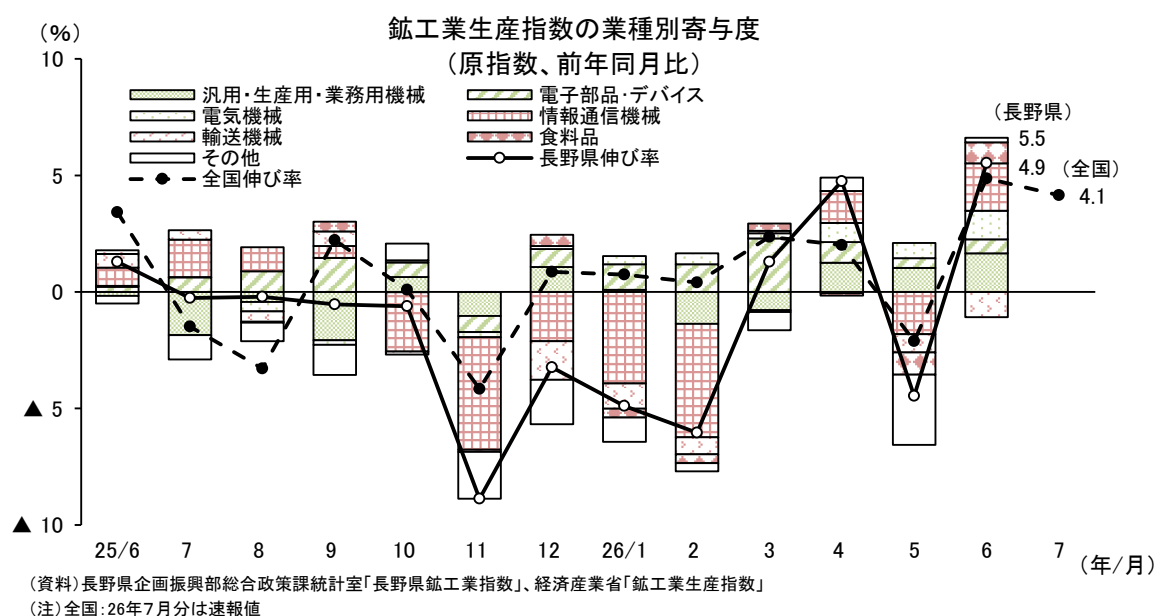
(注) 1. NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す

2. シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

生産

生産は持ち直している

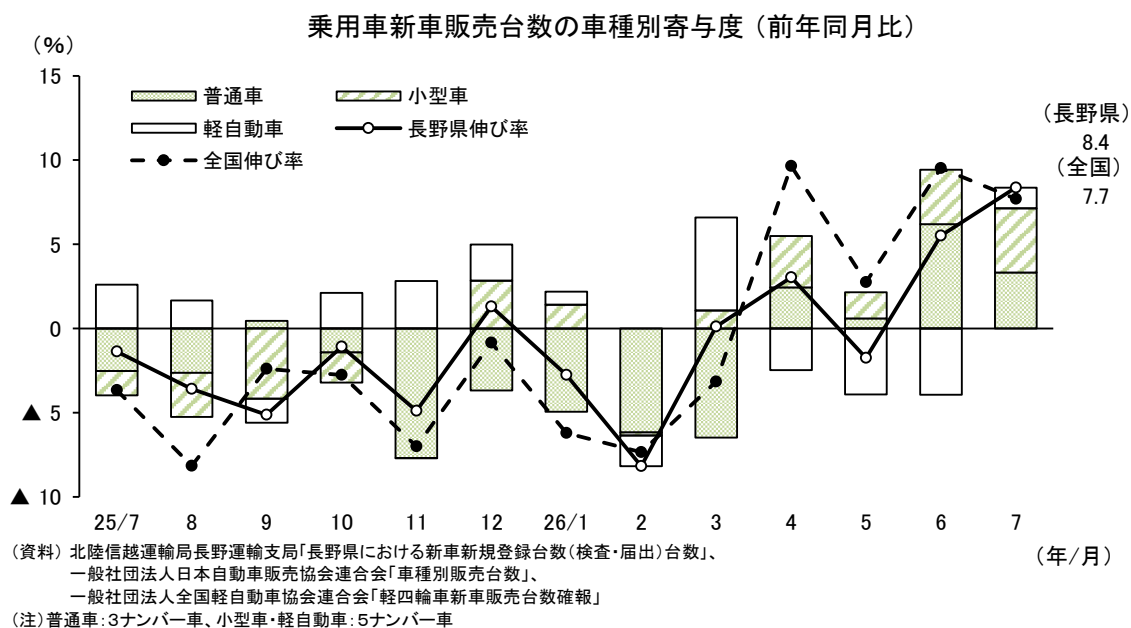
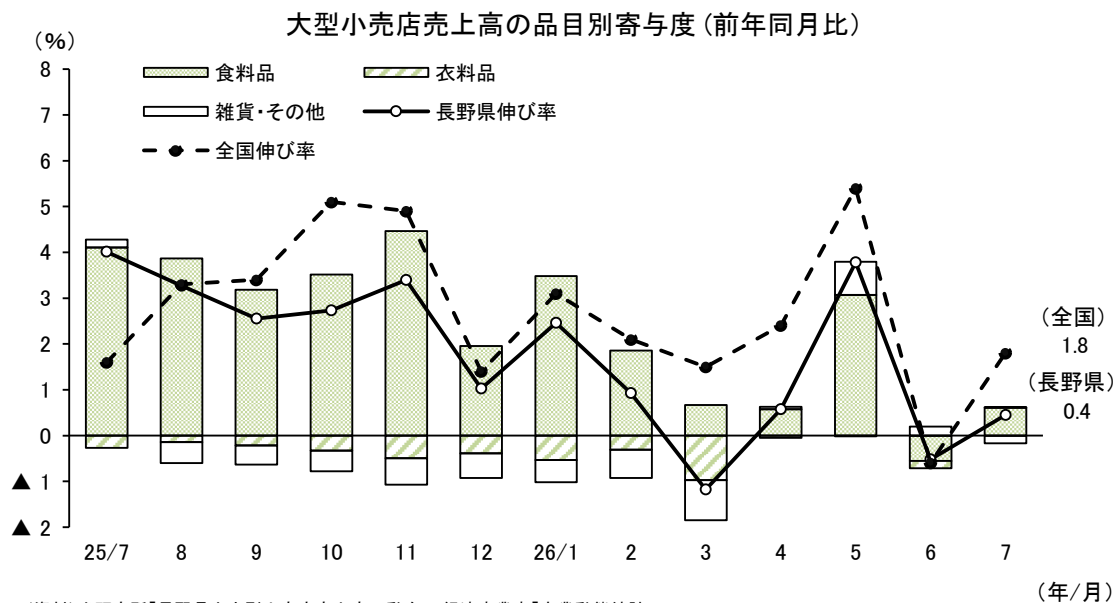
- ・6月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比+5.5%、季節調整済指数が前月比+8.2%となった。
- ・季節調整済指数は2カ月ぶりに前月を上回ったほか、原指数も2カ月ぶりに前年を上回った。世界的に人工知能(AI)向けのデータセンター関連投資が増加する中で、サーバー関連部品や生産用機械などの設備投資関連にも増産の動きがみられることから、生産は持ち直している。
- ・主要業種別にみると、「輸送機械」が前年を下回ったものの、「情報通信機械」「汎用・生産用・業務用機械」などが前年を上回った。



個人消費

乗用車新車販売台数は2カ月連続で前年を上回る

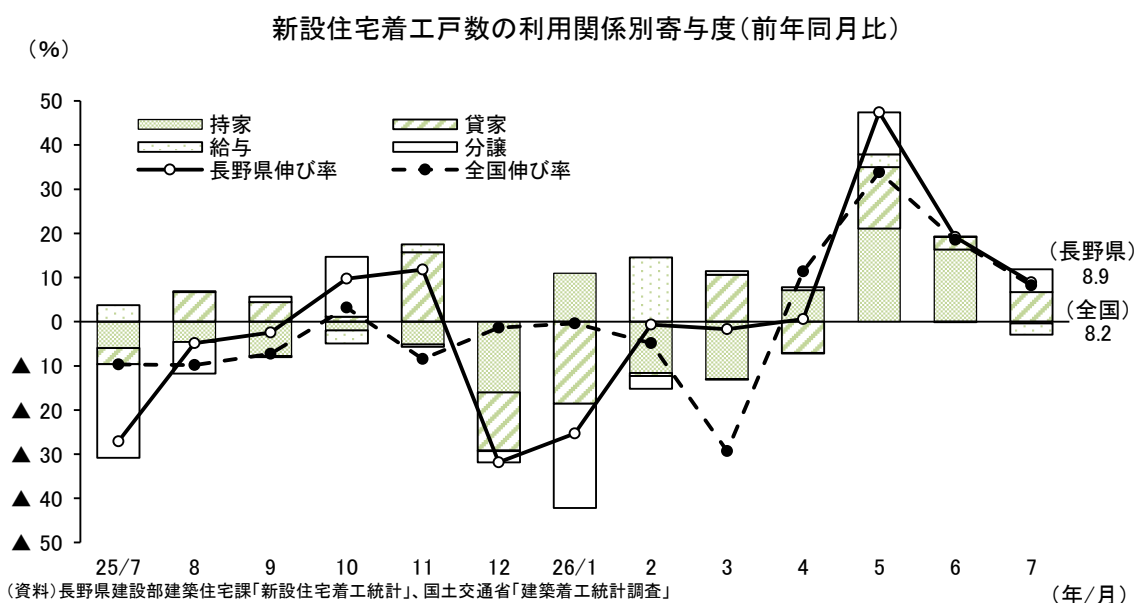
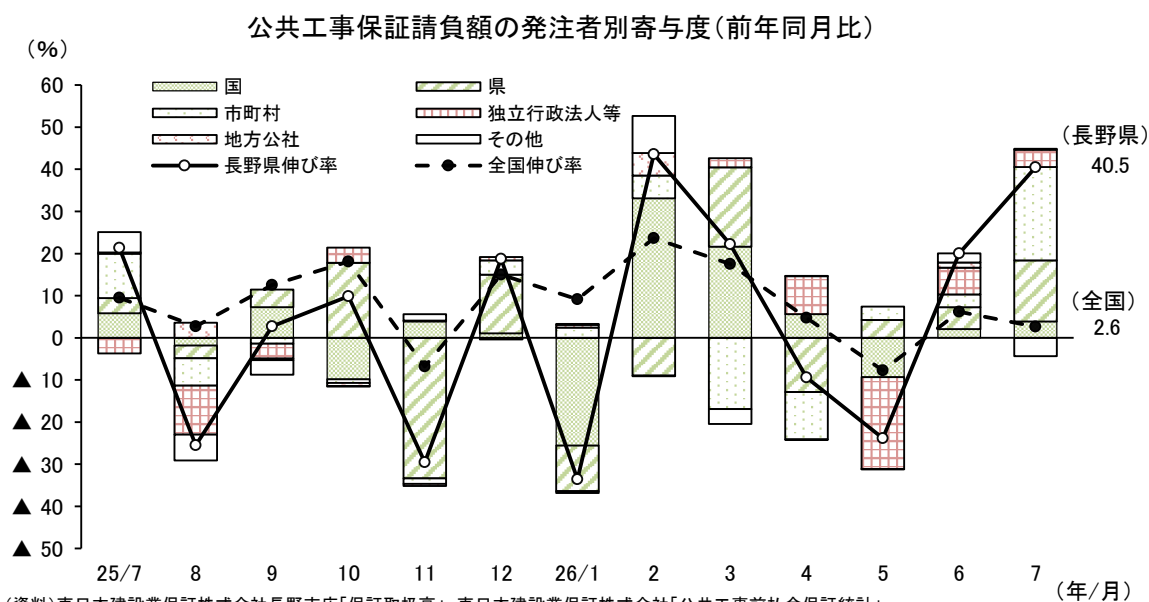
- ・7月の大型小売店売上高は、前年同月比+0.4%（売場面積調整前）となり、2カ月ぶりに前年を上回った。食料品は、飲料や調味料等の販売価格の上昇などにより、同+0.7%となった。衣料品は、気温の上昇により、季節衣料を中心に販売が持ち直し、同+0.3%となった。雑貨・その他は、化粧品等が低調で、同△1.4%となった。
- ・7月の乗用車新車販売台数は、前年同月比+8.4%と2カ月連続で前年を上回った。車種別にみると、普通車は同+8.8%と4カ月連続、小型車は同+18.9%と5カ月連続で前年を上回ったほか、軽自動車は同+2.9%と4カ月ぶりに前年を上回った。



建設投資

公共工事保証請負額は2カ月連続で前年を上回る

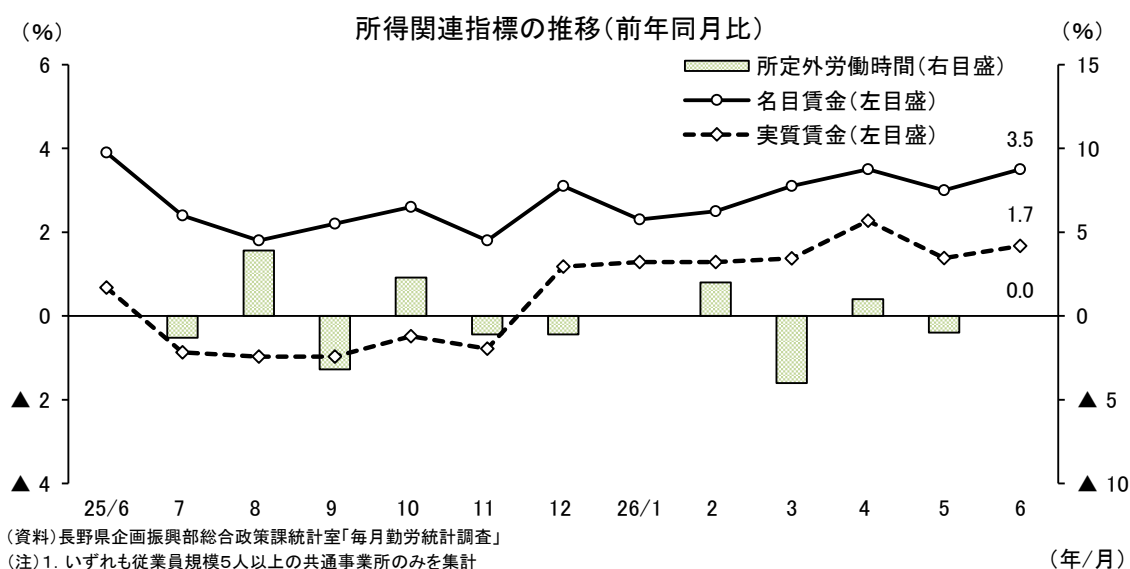
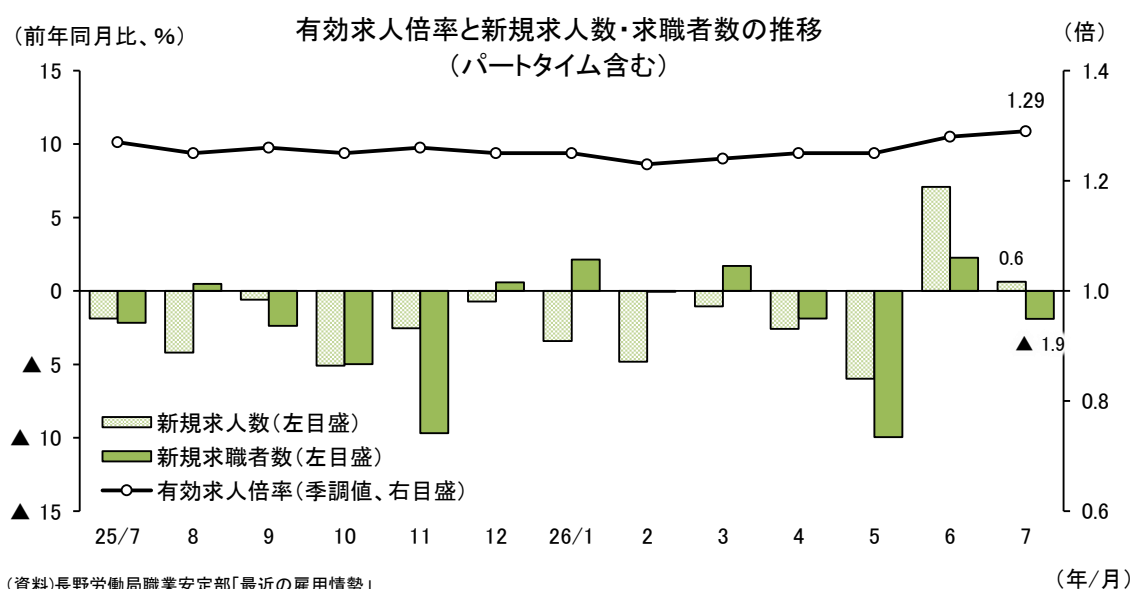
- 7月の公共工事保証請負額は、前年同月比+40.5%の360億7,700万円となり、2カ月連続で前年を上回った。発注者別にみると、その他が同△69.2%と減少したものの、国が同+17.9%、県が同+69.5%、市町村が同+46.3%、独立行政法人等が同+140.6%、地方公社が+59.9%と増加した。
- 7月の新設住宅着工戸数は、前年同月比+8.9%の1,026戸と4カ月連続で前年を上回った。利用関係別にみると、持家が同△0.8%、給与が同△46.2%と減少したものの、貸家が同+21.6%、分譲が同+47.1%と増加した。



雇 用

有効求人倍率は2カ月連続で前月を上回る

- ・7月の有効求人倍率は、前月比+0.01ポイントの1.29倍となり、2カ月連続で前月を上回った。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比+0.6%となり、2カ月連続で前年を上回った。このうち常用は同△0.5%、パートは同+1.2%となった。主要産業別では医療、福祉が同+6.1%、宿泊業、飲食サービス業が同+5.9%、製造業が同+5.0%となるなど7産業は前年を上回ったが、生活関連サービス業、娯楽業が同△21.7%、運輸業、郵便業が同△11.4%、建設業が同△5.6%となるなど5産業は前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比△1.9%と2カ月ぶりに前年を下回った。
- ・6月の名目賃金は前年同月比+3.5%と62カ月連続で前年を上回り、実質賃金は同+1.7%と7カ月連続で前年を上回った。所定外労働時間は同±0.0%と、前年と同じ水準だった。



県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

地域別有効求人倍率は北信を除き前年を上回る

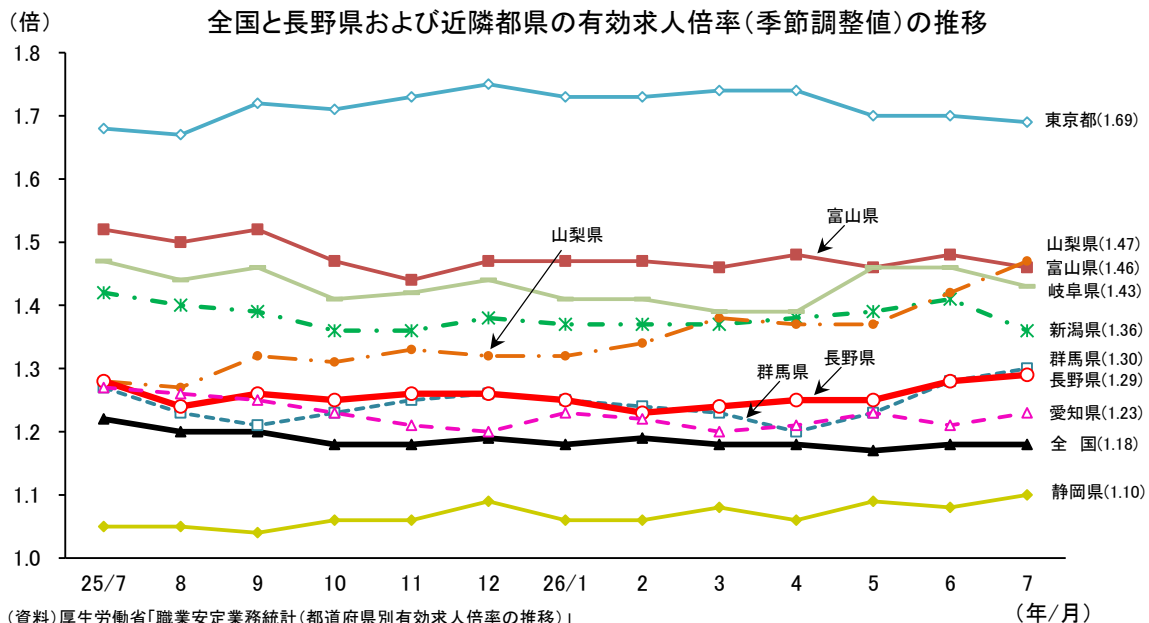
- ・7月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.01ポイントの1.16倍、東信が同+0.06ポイントの1.32倍、中信が同+0.02ポイントの1.30倍、南信が同+0.01ポイントの1.28倍となった。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、木曽福島が1.38倍と最も高く、次いで伊那が1.34倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は70カ月連続で全国を上回り、順位は前月と変わらず15位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(26年7月)

地 域	北 信(1.16) (前年同月比▲0.01)				東 信(1.32) (前年同月比+0.06)		中 信(1.30) (前年同月比+0.02)			南 信(1.28) (前年同月比+0.01)		
職業安定所	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曽福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.26	1.02	1.16	1.07	1.31	1.33	1.30	1.38	1.20	1.26	1.34	1.25
前年同月比 (ポイント)	+ 0.04	▲ 0.02	▲ 0.01	▲ 0.16	+ 0.11	+ 0.01	+ 0.00	+ 0.13	+ 0.01	▲ 0.10	+ 0.15	▲ 0.02
うち常用	1.13	0.98	1.06	0.99	1.20	1.30	1.12	1.31	1.10	1.20	1.15	1.16
前年同月比 (ポイント)	+ 0.00	▲ 0.03	+ 0.00	▲ 0.11	+ 0.05	+ 0.01	▲ 0.08	+ 0.12	▲ 0.02	▲ 0.10	+ 0.11	▲ 0.02

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」

(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値



(資料)厚生労働省「職業安定業務統計(都道府県別有効求人倍率の推移)」

(注)1. 新規学卒を除きパートタイムを含む

2. 長野県の近隣都県および長野県と経済規模、産業構造が類似している県